

～FT-IR・光DSCによる硬化率測定とトラブルの見極め方～

## UV硬化樹脂の硬化不良対策と硬化状態の正しい評価技術

<https://www.rdsc.co.jp/seminar/260693>

- ◆日 時：2026年06月04日（木） 10:30～16:30
- ◆会 場：WEBセミナー（オンライン開催）
- ◆聴講料：1名につき55,000円（税込、資料付）

※会員登録（無料）をしていただいた方には下記の割引・特典を適用します。

- ・1名でお申込みされた場合、1名につき49,500円（税込）
- ・2名同時でお申し込みされた場合、2人目は無料（2名で55,000円（税込））

## セミナーお申込みFAX

03-5857-4812

※お申込み確認後は弊社よりご連絡いたします。

## ●講師：NAMICOS技研 代表 工学博士・接着管理士 並木 陽一 氏

## 【講座の趣旨】

高分子材料は、金属・ガラスなどの材料にはない性質を持つことを念頭に置いて取り扱わないと予期せぬ挙動を示すことがあります。中でもUV硬化樹脂は、その化学的挙動や硬化技術についての基礎的な理解が足りないと硬化不良を起こしやすいという難点があります。

一方、UV硬化樹脂の硬化状態の評価方法は数多く存在しますが、物理的な評価だけに頼っていると化学反応としての硬化が不完全であることを見逃す場合があります。そこで本セミナーでは、主としてアクリル系のUV硬化樹脂について、まず材料技術と硬化技術の両面で硬化状態に影響する基礎項目を挙げ、次に化学反応に着目し硬化反応を評価する2つの手法として、FT-IR装置を使用する方法と光DSC装置を使用する方法について説明します。

これらの評価手法については、具体的な手順や間違いやすい点なども解説し、さらに両手法についてデプスプロファイル（深さ方向の硬化率分布）解析への応用を紹介します。

また、光DSC装置は世界でも数種類の機種しか販売されていませんが、本セミナーでは一般的なDSC装置を一時的に改造して光DSC装置として利用する事例を紹介します。

## 【プログラム】

- はじめに
- UV硬化樹脂の現状
  - 長所・短所
  - 適用例と硬化不良例

## 3. UV硬化樹脂の材料技術

- 3-1. 主な成分とその働き
- 3-2. 硬化反応機構
- 3-3. 硬化反応性に影響するもの

## 4. UV硬化樹脂の硬化技術

- 4-1. UV照射装置
- 4-2. 照射強度と照射時間
- 4-3. 酸素阻害
- 4-4. その他硬化状態に影響するもの

## 5. UV硬化樹脂の硬化状態の評価技術

- 5-1. 物理的方法
- 5-2. 化学的方法

## 6. FT-IR法による硬化率測定

- 6-1. 装置
- 6-2. 測定手順
- 6-3. 注意点
- 6-4. デプスプロファイリング

## 7. 光DSC法による硬化率測定

- 7-1. 装置
- 7-2. 測定手順（内部硬化法）
- 7-3. 測定手順（外部硬化法）
- 7-4. 注意点
- 7-5. デプスプロファイリング
- 7-6. DSC装置の光DSC化

## 8. まとめ

## 『UV硬化測定【WEBセミナー】』セミナー申込書

会社名			
住所	〒		
電話番号		FAX	
お名前	所属・役職	E-mail	
①			
②			

## ● セミナーの受講申込みについて ●

必要事項を記入のうえ、FAXにてお申し込みください。弊社で内容を確認後、受領のご連絡を差し上げます。受講用URLは後日お送りいたします。

なお、お申し込み後のキャンセルは原則として承っておりません。ご都合により出席できない場合は、代理の方にご出席いただくようお願いいたします。代理の方も見つからない場合は、（土日祝日を除く）8日前までにご連絡いただければキャンセルを承ります。

お申込み・振込に関する詳細はHPをご覧ください。  
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/entry>  
個人情報保護方針の詳細はHPをご覧ください。  
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/privacy>

会員登録（無料）  Eメール  郵送 ※ご希望の案内方法を選択してください。複数選択可。